



# 実施報告書

団体(施設)名

---

事業(行事)名

1. 助成金の活用状況(どのような行事を行ったか。)

2. 事業(行事)のアピールポイント・よかったこと・苦労したこと

3. 審査委員からのアドバイスを受けて活動に活かすことができましたか？

審査委員のアドバイス

4. 今後の事業計画・事業展開について

## 活動収支報告書(例)

### 収入

項目	内 訳	
公募助成金		50,000
自己資金		9,345
参加費	参加費@100円×42人	4,200
その他		
合 計 (b)		63,545

### 支出

項目	使 途 内 容 <内 訳> 金額(円)	金額(円)
交通費	ボランティア交通費(実費) ○△氏@470円×2回=940円 ×□氏@1,340円×2回=2,680円	3,620
謝礼	ワークショップ講師謝礼(□□氏)@10,000円×2回=20,000	20,000
資料購入費	子育て勉強会に関する書籍@1,200円×3冊=3,600円 読み聞かせ絵本@1,500円×4冊=6,000円	9,600
消耗品費	ペン@99円×10本=990円、画用紙@130円×5セット=650円 A4コピー用紙@298円×5冊=1,490円 ホワイトボードマーカー@120円×10本=1,200円 長形2号封筒(10枚入り)@98円×30セット=2,940円 紙コップ(10ヶ入り)@99円×15袋=1,485円	7,765
製本・印刷費	プログラム(資料)代@30円×20×2回=1,200円	1,200
材料購入費	工作用木材@200円×30コ=6,000円	6,000
備品購入費	電気ケトル@3,980円	3,980
茶菓代	おやつ@100円×15人×2回=3,000円 ジュース代@248円×10本=2,480円	5,480
通信・運搬費	ハガキ@50円×30枚=1,500円 切手@80円×30枚=2,400円	3,900
保険料	行事保険@1,000円×2回=2,000	2,000
合 計 (a)		63,545

※領収書(写し)の提出をお願いします。(貼付して提出される場合は、購入品と金額が見えるように  
 お願いします)

# 実施報告書(例)

団体(施設)名                     〇〇〇サークル                    

事業(行事)名

垂水子育てサークル(ピヨピヨ)

## 1. 助成金の活用状況(どのような行事を行ったか。)

サークルでは、通年で子どもの遊びプログラムと、保護者支援活動(子育て相談会)を実施しているが、今回の助成金を活用し、新たに専門家を招いて親と子の子育てワークショッププログラムを実施した。親と子のワークショッププログラムの具体的な内容は、以下の通り。

### 【1,親子でコミュニケーション「あ・い・う・え・お」】

すぐにできる手遊びや、子どもへの言葉かけの大切さについての参加型座学に加え、講師による絵本の読み聞かせなど、子ども中心に楽しめるコーナーになった。

### 【2,保護者のこんなときどうする?お互いの奮闘について語り合おう!】

子育てなどで困ったことと、それらをどうやって乗り切ったか、参加者の体験談と講師がもつ豊富な事例から語り合うワークショップを実施。様々な事例が講師のファシリテーションにより参加者の間で共有された。

## 2. 事業(行事)のアピールポイント・よかったこと・苦労したこと

### 【アピールポイント】

これまでの子育て相談会では、当事者が自助的に相談しあうのが主だったが、このたびの事業で、専門家を講師として招いたことで、当事者間では気づかない視点から考え、学びあう機会を持つことができると考えた。

### 【良かった点】

専門家を招いたこと、また助成事業を受けたことで広報できる範囲が広がり、参加者増につながった。そのため寄付金集めが思うようにいかなかったが参加費で最後まで事業を実施することができた。助成金申請にいたった経緯からも、なんとかこの状態を維持・発展し、活動の運営立て直しにつなげていきたい。

報告書に何を書けばよいか迷い、急きょアンケートを実施したが、普段は聞けない参加者の生の声を聴くことができた。また、次年度の活動の方針が打ち出しやすくなった。

### 【苦労したこと】

専門家(講師)との日程調整に苦労した。

寄付金集めが当初目標額を割り込んでしまった。

アンケートを実施したが、内容をまとめることに手間取った。

## 3. 今後の事業計画・事業展開について

アンケートを見ると、「今回のようなワークショップを、今後も開催してほしい。」という声が多かったので、次年度からも規模を縮小してでも実施していきたい。また、子育て世代が求めている、そのほかの支援についても、できる限りこたえられるような、年間プログラムの作成と実施に努めたい。